

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサポート株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷 (たけ)		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反田8-1		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前はできていたことも少しづつできなくなってきているご入居者がいる中でも、皆さんと共に楽しめることを探しながら、季節感を味わえる行事やコミュニケーションづくりを大切にしている。その場において雰囲気を感じて一緒に楽しめる環境づくりに努めている。スタッフはご入居者の笑顔を大切に、喜ばれている様子を見てやりがいを感じている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2673000127-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	京都府京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	令和4年3月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を唱和して意識づけている。職員に周知し、理念に基づいた支援を日々心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣とのお付き合いに加え、勤労感謝の日には幼稚園児より手紙を頂いたり、中学生よりがボランティアの一環として育てた花の鉢植えが届けられ、コロナ禍でも繋がりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば中学生の職場体験でご入居者との交流を通じて「認知症」について理解してもらえる取り組みを実施している。地域の方より相談があった時には想いを傾聴しながら支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり最小人数での会議となっているが、ユニットごとに入居者の状況を報告し、ご意見を頂いて取り組みに活かしている。広報誌を見ていただき、ホーム内での行事の取り組みをお伝えしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度はコロナ禍でもあり運営推進会議には高齢介護課・地域包括支援センター・家族の参加が主であった。コロナ禍の連携や協力体制がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、フロアの移動も自由である。スタッフは声を掛け合い所在確認を行っている。新しく入られたご家族にも環境の変化で転倒などのリスクについても説明をしてご理解いただいたうえでケアに当たっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、スピーチロックやドラッグロックについても学び、つねに適切なケアになっているかを話し合っている。虐待に繋がらないように相談事が言える環境をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が2名おられる。 外部や内部の研修を通して理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、同意をいただいている。重度化した際の指針についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が話しやすい環境づくりに努めている。面会時には日常の様子をお伝えするとともに、ご家族のご意見をお聞きして一緒に考えていく姿勢をもっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等が出た職員の意見や提案を、リーダー会議を通じて管理者に伝える事が出来る。管理者と年に2回個人面談の機会がある。職場懇談会では職場の課題が抽出できる機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との面談において資格習得へのサポート、知識向上に向けた研修への参加があり、意欲向上に繋がっている。職員の生活も大切であると認識のもと、希望公休、有給休暇も取得しやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修でより受講しやすい環境となっている。チューター制度と取り入れて新人職員の育成を図っている。看護職員による研修では「介護につながるケア」を実施。医療知識の習得にもつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍でもあり交流、活動はなかったが、機会があれば積極的に参加をしてサービスの質の向上に取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	トイレや自分の居室がわからない時は案内をしたり、困ったことがないか不安な気持ちを汲み取って、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族関係を理解して接している。少しずつ慣れていかれている様子を伝えて安心につないでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば福祉用具などについて説明をしている。ご家族の心配していることを汲みとり支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持つことや他者に頼られることを喜びとしている。職員は生き方や人生を学ぶことができ共に支え、支えられる関係となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であるが、ご家族との絆を大切にストレスがかからないように、感染対策に努めながら面会を継続している。受診が必要な方はご家族での対応を継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方からの面会は減って、関わりも薄くなっているが、届いた年賀状を喜ばれて大切にされている。職員は昔話ができるように会話に工夫をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立しないように職員は一人ひとりの個性を大切にしながら他者同士の関係づくりの橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も近況を伺ったり、ご利用中の話を思い出して懐かしむなど関係性が保たれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりの気持ちに添ってほしいこと、したくないことを選択して頂けるように声をかけている。その人の生活歴、その人らしさを大切にしている。言葉で言い表せない方は、仕草や表情で察している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に家族との会話の中で情報があれば情報共有をして、本人の望ましい生活の全体像を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼では心配のある入居者の体調・心身状態を伝え、施設全体で把握して見守っている。ユニット内では全員の体調や一日の予定を申し送り、安全に一日が過ごせるように申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議は月1回開催し、お一人お一人のモニタリングを行っている。ご家族に状態を伝えたり、相談した時に今までの生活歴の中からヒントをいただけるときもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録(D-4シート)、特変が生じたときは別表(D-3シート)を作成することでアセスメントにつなげ、体調やリスク管理の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情で通院など同行できない時は、職員が付き添い支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中あり、ボランティアの書道の先生に毎月お手本を頂いて、お稽古を継続している。長岡天神の書初め展に出展している。書道を楽しみにしているご入居者にとって励みとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医との信頼関係があり、ご入居されても安心して訪問診療を受けられている。診療の記録は「在宅療養手帳」を利用して、かかりつけ医、看護師、職員が連携して体調の見守りをしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時に医師への連絡もしてもらったり、相談、アドバイスをもらいながらケアに活かしている。食事介助や清潔保持、介護につながる医療知識の研修をしてもらいスキルアップに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院支援の看護師やソーシャルワーカーなどと連携し、現状の確認や退院後のケアを含めて情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の時にご家族の意向の把握に努めている。また、普段の会話より本人の望んでいることの把握に努めている。西山の郷で看取りを希望される時は看取りを説明し、文書でターミナル時の対応を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の時は、リーダー、家族、医師などへの連絡方法を確認しあっている。夜間の急変や事故では他階への応援も要請している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの確認と共に消防署の協力を得て避難訓練を毎年自主訓練も含めて2回実施している。入居者お一人おひとりの状況に合わせた避難の方法などを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉がけとなるように気を付けている。お一人の時間や、空間を大切に節度を持った接し方に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ピアノを弾くことが好きな方は、いつでも弾くことができるようにするなど、本人が生き生きと過ごすことができるように環境づくりに工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	陽気に誘われてふいに外に出かけたくなる方は、時間にとらわれずに一緒に付き添うなど希望に添う支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の長さが気になりだしたころ、理美容師に訪問してもらい、その方に似合ったカットをしてもらっている。お化粧をしている方は、いつまでもおしゃれな気持ちを持っていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	焼きそばやバーベキューでは一緒に焼いたり盛り付けをしたり、節分はご自身で巻き寿司を巻いて美味しいと喜ばれている。おやつのかきもちも手伝ってもらいながら出来上がりを楽しみにされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好むものや、好まれないものを把握しながら無理なく食事が楽しめるように支援をしている。主治医と相談して補助食品も使用しながら栄養のバランスも大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防の為に口腔ケアに努めている。食べる楽しみが長く続くように義歯の状態にも注意して不具合があれば歯科受診をして調整してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が行えるように、本人の力もだしていただき支援している。二人介助でトイレが可能であれば二人で介助をしてできるだけトイレでの排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤に頼らず、水分、乳製品の摂取、適度な運動、腹部を温める、良好な睡眠をとるなど、便秘とならないように工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	排泄の状況や体調に合わせて、時間や順番などの決まりはなく、また入りたいときに入れる気持ちを大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活リズムに合わせて休息をとり、次の活動の繋がるようにしている。眠れないときはホットミルクを用意したり、リビングで過ごしてもらったり眠れる環境をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の持病と服薬の目的、副作用等を理解してスタッフが管理を行っている。薬が変更されたときは様子観察をして主治医に経過を報告して症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、散歩、踊り、テレビでスポーツ観戦、ピアノを弾く、時代劇を観るなどお一人おひとりが好きなことで楽しまれている。夏にはノンアルコールを楽しまれたり、手作りのおやつも喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出や外食はできていないが、近くの畑にはコスモスや菜の花が咲き、散歩に出かけて季節を感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は持たないが、移動市場では自分が食べたいものを選んで購入し、買い物支援をしている。コロナ禍でなければ一緒に買い物に出かけられる環境である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットを使用できるようになっているがあまり活用されていない。 手紙のやり取りができる企画を考えていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、工作をして楽しんでもらっている。共用の場所を清潔にしている。冬にはエアコンで乾燥しないように濡れタオルや加湿器を利用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は入居者同士の関係性を活かして席をつくっている。レイアウトを見直してくつろげる空間に努めている。自由に過ごしていただきながら、常に所在を確認して安全を見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具やなじみの方との写真などを置いて、新しい居室にも慣れてもらえる環境をつくっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室入口には手すりが設置されて、立ち上がりやふらつきなどを予防し、ご自身の力でできるだけ移動できるようにしている。トイレには表示をしてわかり易くしている。		